

Myツール

日本工具工業会 会報



汐留今昔・雑感

理事 石橋 秀男

寄稿にあたり、会報の包括的趣旨内容に相応しい巻頭言にあらず、一般的諸言なる事ご容赦願います。

本年4月末、久方の東京でのねじ切り工具部会出席後の帰阪途中、大型書店で「江戸各年代古地図」を入手、東京在地は江戸期如何ばかりかと、興味津々でした。

さて、昭和40年から45年までの高度成長期、所謂「いざなぎ景気」の最中、車・エアコン・カラーテレビといった新・三種の神器が飛び交う中、昭和43年5月、東新橋にて当社の東部営業所を開設しました。汐留設定は、大阪梅田を夜発の国鉄貨物輸送のターミナルが汐留であり、翌朝8時には荷物を引き取り首都圏放射状に即配布が可能で、その流通高利便性が故、以後離れ難かった所以です。

私の東京赴任は昭和49年5月で、既に第一次石油危機が始まり、孤軍奮闘劇の展開を余儀なくされ、忍耐、洞察、行動、精神力強化向上に役立った事は云うまでもありません。以後昭和55年よりの第二次石油危機、昭和60年円高不況で輸出産業大打撃・製造業倒産続出、一方昭和63年よりの土地神話に支えられたバブル景気到来、平成3年バブル崩壊、平成20年のリーマンショック等に対し、日本企業の大・小に関わらず、それを回復、乗り切った体験故、今の精神的底力が日本経済支えの一助である事を信じて疑いません。

ここで話は戻り、この地、汐留の名の由来は、江戸城外堀に潮の干満の影響が及ばないように、海と堀とを仕切る堰を設け、この地域が潮溜りとなっていたことに由来します。江戸湾海辺の湿地帯から、慶長8年家康の天下普請で埋立地が完成、木材・薪商人の三角屋敷と周辺に武家屋敷が立ち並びました。時を経て明治5年、新橋駅開業。大正3年、汐留貨物駅開業。昭和61年、国鉄汐留駅廃止。平成7年、東京都と民間プロジェクトによる、汐留跡地の再開発スタート。平成15年、電通本社、日本テレビ他、高層ビルへ移転。近々の環状2号地上街路「新虎通り」開通に至ります。

さて、入手した、元禄6年版「江戸図正方鑑・槍の図」と汐留現在地を対比しますと、銀座側より

** 播磨瀧野藩5.3万石 脇坂淡路守 上屋敷
 (浅野刃傷事件後の赤穂城受渡しの正使)

現在…電通、パナ電工、汐留シティセンター

** 奥州仙台藩62万石 松平陸奥守 上屋敷

現在…日本テレビタワー、東京汐留ビル

** 奥州会津藩3万石 (保科)松平肥後守 中屋敷

現在…住友汐留ビル、日通ビル

その後方は、

** 甲府 35万石 中納言 松平綱重 濱屋敷

現在…浜離宮恩賜庭園 にほぼ当たります。

さて時は元禄15年12月15日未明、赤穂浪士は本所・松坂町の吉良邸へ討ち入り後、午前6時頃隅田川東岸縁を南下、永代橋を渡り築地を経て掘割に架かる汐留橋から上記藩邸表門前を通過、旧東海道を經由して高輪泉岳寺に午前8時頃に着いたようであります。当社の当初事務所は、会津藩中屋敷表門付近かと推察され、刃傷事件後、浅野長矩の預け先となり、即日切腹の地である奥州一関藩3万石、田村右京大夫建頭邸の近くです。

以上何か「忠臣蔵」からみの展開となりましたが、先般江戸城本丸御殿のCG再現放映を見て、卓越した技術に感銘し、特に大広間と白書院につながる「松之大廊下」の図面の中に、柱と建具が記され、中庭側に板戸と障子が連なり、上部の障子は屋根の庇で光を遮り、幅4m長さ55mの畳敷廊下内は日中でも薄暗い事が判明、元禄14年3月14日曇空の午前、浅野長矩は吉良義央の背後1.5mまで気配なく近づき、殿中短刀で刃傷に及んだとあり、この戸板と障子、薄暗さの中での往時の情景が彷彿と思ひ浮かびました。

ここで平成の世に戻り、消費税増税後の景気動向の不透明感はまだ拭えず、夏以降の好転を期待しつつ、工業会会員各社の更なる御健闘とご発展をお祈り申し上げます。

(株)イシハシ精工 代表取締役社長)

平成26年度通常総会・春季合同部会開催

平成26年度(第67回)通常総会および合同部会は、去る6月5日(木)仙台市・秋保の伝承千年の宿「佐勘」七宝の間にて開催された。



役員席

(向かって左より 堀理事長、石川副理事長、渡邊副理事長)

通常総会は、日下部専務理事より定款の定める定足数を満たし、本総会は有効に成立する旨の報告があり、開会した。堀理事長(不二越)は、挨拶の後、議長として議長席に移動、議事録署名人として(株)金森ドリル製作所社長金森誠氏、(株)イシハシ精工社長石橋秀男氏を選出して、議事審議に入った。



通常総会の様子

第1号議案「平成25年度事業報告」、第2号議案「平成25年度決算報告」は一括審議とし、事務局から昨年5月のWCTC開催を含む年間の会議や委員会の開催状況も含めた説明の後、監事の大見工業(株)社長大見満宏氏から会計監査報告があり、両議案とも満場一致にて承認可決された。

次いで第3号議案「平成26年度会費徴収案」について木村康成総務企画委員長(不二越)から総務企画委員会報告とともに説明があり、第4号議案「平成26年度事業計画案」と第5号議案「平成26年度収支予算案」について事務局より説明があった。この審議に関わる内容として第6号議案である「超硬工具協会との統合検討開

始について」の審議が先ではないかという動議により、事務局より説明がなされた。両団体で「統合推進委員会」を立ち上げ、統合の原案を作成し、両理事会の承認を得るための検討を開始する。この件に関して書類を事前に送付し、



総務企画委員会報告
(木村委員長)

部会、委員会での説明、あるいは会員会社を訪問して、説明させていただいた。統合に関しては、「事業規模拡大により発信力を向上させる」「ISOなどに積極的に取り組み、日本の技術を発信する」に加え、対等な合併が前提条件となる。既に両理事会にて統合開始の検討の承認を得ている。2015年の賀詞交歓会は共同で行う予定であり、超硬工具協会は6月4日の総会にて開催が承認済となった。統合時期に関しては、来年の総会時期がひとつの目途となる。

この議案に対して、酒井精工(株)会長八馬厚雄氏より、「当工業会は、5種類の工具品目ごとの部会と技術専門委員会があり、コンプライアンスのルールを十分に遵守しながら、同業他社が親しく交流する実戦的な組織となっています。超硬工具協会の組織は工具の種類ではなく文化委員会と地区会員懇親会がメインでゼネラルな組織であることから、今までのようなメリットが感じられません。また統合の可否を決定するにあたっては、全会員の投票で決定していただきたい」という意見が出され、その後、活発な意見交換がなされた。

堀理事長から「商品別の部会は残していきたい。議論を重ね、我々はSolid Toolにこだわり、現在の創立66年から100年へとどう変遷していけばいいのか。未来に向けて2つの団体がひとつになり、両方が発展できないと意味がなく、それを見出し、審議を尽くすために統合の検討を開始するプロセスにご賛同いただきたい」という発言の後、拍手をもって6号議案を含む4議案とも満場一致にて承認可決された。

報告事項としてJIMTOF2014の工具工業会会員会社の出展状況(23社129小間)と小間位置の報告がなされた。

休憩を挟んで春季合同部会が開催され、日下部専務理事より平成25年度の生産額実績と26年度の見通しに関する報告があった。平成25年度の実績は1,000億円をクリアし、1,010億8,300万円、対前年比100.4%、



関口ドリル部会長



今泉フライス部会長



東野歯切工具部会長



古澤ねじ切り工具部会長



植山バイト部会長



環境委員会報告
(松岡委員長)



技術委員会報告
(河野委員長)

会員異動の影響をなくした数字では99.5%とほぼ前年実績並みとなった。平成26年度の生産額見通しは、全ての品種で前年度プラスの1,068億2,000万円と対前年比105.7%という見通しとなった。

次に関口ドリル部会長(不二越)、今泉フライス部会長(オーエスジー)、東野歯切工具部会長(三菱マテリアル)、古澤ねじ切り工具部会長(彌満和製作所)、植山バイト部会長(高周波精密)、河野技術委員長(三菱マテリアル)、松岡環境委員長(不二越)による各部会・委員会報告の後、堀理事長の総括で締めくくり閉会した。

その後30分ほどの休憩を挟み「松・竹の間」で懇親会が催された。石川副理事長(オーエスジー)の挨拶と乾杯にて開宴、和やかな懇談の後、八馬厚雄氏(酒井精工(株)会長)の中締にて閉会した。

翌日は、恒例のよしみ会(親睦ゴルフコンペ)と観光コース(狛鼻溪川くんだりと平泉観光)に分かれ、親睦を深めた。

堀理事長挨拶要旨

本日はご多忙中にもかかわらず、遠路までご参加いただきありがとうございます。昨年、理事長に就任させていただき、もう1年が経過してしまいました。昨年来の超円高是正も、会員各社の業績への好材料となったのではないでしょう



堀理事長挨拶

か。業界全体も元気が出てきたように感じます。理事長就任時に、工業会会員生産1,000億円にこだわるといいましたが、平成25年度はこの大台をなんとかクリアできました。今年度の幕開けは、消費税増税で4月は減少しましたが、5月は回復しその影響は少ないものとなっています。

昨年は世界切削工具会議という大きな国際会議を超硬工具協会と合同で開催し、日本の技術力の高さやプレゼンスを発信することが出来ました。また、技術立国を目指す工業会として、技術開発力に磨きをかける必要性を実感しました。

秋季合同部会は、オーエスジー殿が環境大賞を継続して受賞され、継続する力の素晴らしさに敬意を表したいと思います。皆さんも競争心をもって環境改善に取り組んでいただきたいと思います。

日本が最先端技術を発信し続けるということは重要なことで、理事長就任時の抱負として、まず今日のような会員相互の交流の活性化、そして日本から最先端技術を世界に発信しようと申し上げました。本日の総会は、工具工業会として大きな転換点となる提案もさせていただきます。1948年創立以来66年の歴史の中で、我々の技術力が世界のトップかつリーディングをしていることを誇りに思い、次世代への道を作ること踏まえて前向きに議論させていただきたいと思

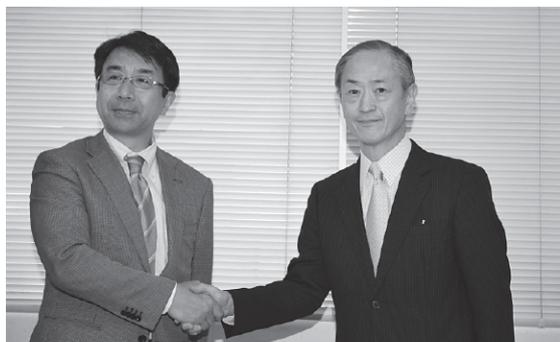


懇親会前、全員で記念写真

超硬工具協会との統合検討開始について

日本工具工業会事務局

通常総会の記事にも記載がある通り、6月5日に開催された平成26年度日本工具工業会通常総会において『超硬工具協会との統合の検討開始について』が決議され、両団体が統合に向けて検討していくことになった。統合に当たっては、対等な統合が前提条件であるが、統合により業界規模が4,000億円となり、同業者団体としてのプレゼンスも向上することが期待される。6月17日には、堀・増田両理事長による共同記者会見が16社のプレスが参加して開催され、活発な質疑応答があった。この共同記者会見により、会員以外への正式な公表となり、いよいよ統合の検討が具体的に動き出すこととなった。



記者会見後、握手をする堀・増田両理事長

総会での決議に至るまでの経緯は、昨年の秋、超硬工具協会の増田理事長から堀理事長に統合の提案があり、その後、当工業会の正副理事長での話し合い、両団体の正副理事長による意見交換会が開催され、両団体とも統合に関して異議はなく賛成である旨、表明された。両団体での最終決定機関は総会であり、6月4日(超硬工具協会定例総会)と6月5日(日本工具工業会通常総会)での決議に向け、4月にはそれぞれの団体が理事会を開催し、総会に付議する議案として、『統合の検討開始』が決議された。また、理事会のメンバーでない会員には十分な理解を得るため、訪問などにより説明を行った。

統合を推進するため、両団体から5社(5名)ずつの委員を選出して頂き、事務局と合わせて15名程度の統合推進委員会を発足させ、様々な課題を解決していくこととなった。統合の時期については未定であるが、一つのターゲットとして、来年の総会の時期(6月頃)が想定される。来年の総会は役員改選の年であり、一つの節目である。

統合推進委員会のメンバー

<順不同>

日本工具工業会		超硬工具協会	
(株)イワタツール	岩田 昌尚	住友電気工業(株)	田中 滋彦
オーエスジー(株)	徳永 良二	ダイジェット工業(株)	早川 和男
(株)不二越	木村 康成	日本特殊陶業(株)	山田 正通
(株)彌満和製作所	上泉 泰	富士ダイス(株)	熊谷 憲司
理研製鋼(株)	岩野 純一	三菱マテリアル(株)	向野下 繁
事務局	日下部 祐次	事務局	関口 紳一郎
事務局	鈴木 一貫	事務局	大石 哲也

今回の統合検討の背景として、昨年日本で開催されたWCTC2013(世界切削工具会議2013)のホスト国として超硬工具協会と共同で活動し、成功裡に終わった事やコバルトリスク問題に両団体の環境委員会が共同で取組み、成果を上げてきた事など、今後一層の連携のニーズが高まることが考えられる。また、両団体の設立時は、特殊鋼工具と超硬工具のそれぞれの工具のメカ団体ということであったが、昨今は当工業会の会員の殆ども超硬材質の工具を製作しており、素材の違いで工具を区別する団体が存在するのは、日本だけとなっている。

とは言え、両団体とも今年で設立66年目の年となり、それぞれ異なる運営の仕方で行ってきており、いきなり統合と言われても戸惑われる会員も居られると思われる。しかし、この機会を前向きに捉え、我々の業界が将来に向かって発展できるような活動が可能となる団体になるよう、統合推進委員会のメンバーで課題をしっかり把握し、解決していきたい。もし統合する場合は、今まで我々が取り組んできた活動の良い点はしっかり残し、統合して良かったと会員の皆様から言われるようにしていきたいと考えております。是非、関係各位のご意見・ご要望を戴きたくお待ちしております。

日本工具工業会と超硬工具協会の概要

団体名	日本工具工業会	超硬工具協会
英文名	The Japan Solid Cutting Tools' Association	Japan Cemented Carbide Tool Manufacturers' Association
所在地	東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館203号	東京都千代田区岩本町2-5-11 岩本町T・Iビル
設立年月	1948年(昭和23年)3月	1948年(昭和23年)4月
会員数	52社 (正35社、賛助17社)	72社 (正37社、準・賛助35社)
理事長	堀 功 (株)不二越	増田 照彦 (三菱マテリアル(株))
生産額	1,038億円(2013年度)	2,892億円(2013年度)
生産品目	切削および塑性加工工具	超硬、セラミック、サーメット、焼結体工具および原料粉



「我が社の有望株」

我が社の技能五輪選手第1号。まだまだマイスターと呼べるほどの経験はない若干21歳の若者ですが、間違いなく将来のマイスター候補であります。

【名前】

武田 友晃

【部署名】

オーエスジー(株) 総務部人財開発グループ

【仕事内容】

主に技能五輪フライス盤職種の選手として訓練を積んでいる21歳の若者です。

所属している総務部人財開発グループは技能五輪、技能検定といった社員への技能力向上に向けた支援や各種社員研修など人材育成を主業務とする職場です。技能五輪訓練の傍ら、人財育成業務のスタッフとして活躍してくれています。



【職歴】

入社3年目、総務部人財開発グループ勤務

【仕事上の苦勞・喜びなどエピソード】

地元工業高校に在学中、「高校生モノづくりコンテスト全国大会」の旋盤部門で日本の栄冠に輝いた逸材です。オーエスジーへ入社してきた彼に「旋盤技能を捨てて自社製品であるフライス工具を使って、フライス盤で技能五輪を目指してみないか?」と声をかけました。それ以降、高校時代ほとんど操作したことがないフライス盤の操作をイチから習得し、入社1年半の訓練期間を経て、一昨年、技能五輪長野大会に初めて出場しました。何もわからない状態での取り組みの中で愛知県大会を勝ち抜き、技能五輪全国大会への出場を果たしてくれました。

【こんなところが凄いです! 誰にも負けないんです!】

初出場の長野大会時、制限時間内に課題を完成できない選手が続出する中でしっかりと課題を完成させたことです。上位入賞は果たせなかったとはいえ、長野大会での課題の難易度を考えると初出場でこのレベルは驚異的な結果として評価されました。

推薦者: オーエスジー(株) 総務部人財開発グループリーダー

山岡 浩二

極めて短時間に、研削加工並みの精度と仕上げ面で4点の部品加工を行い、それらの部品を組立て後に摺動させる精度もフライス加工品とは思えぬ出来栄でした。初出場でここまでやってのけるとは正直想定しておりませんでした。5時間以上に及ぶ競技終了後、「ごくろうさん!」と握手したとき彼の涙を見ました。オーエスジー技能五輪選手第1号のプレッシャーの中で全力を出し切った当時19歳の選手の涙でした。「モノづくりは人づくり」と言われます。技能五輪という最高の人材育成ステージを経て、将来、ゆるぎない”マイスター”に育つでしょう。

【これからの抱負】

まずは目の前の目標である技能五輪全国大会での入賞です。2014年11月、地元愛知県で開催される全国大会は彼にとって最後のチャンスとなります。想像を絶する厳しい技能レベルとの闘いですが、願わくば表彰台に上げてやりたいと思っています。果たせない夢かもしれませんが、若者が夢を抱いて我武者羅に頑張れる文化が明日の企業を創るのではないのでしょうか。彼の技能五輪引退後は後進の指導にあたらせ、高度技能者を一人でも多くモノづくり現場へ配置してまいります。気の長い構想ですが、人づくり、企業づくりはこうした積み重ねなのだろうと思います。今はまだ21歳の若者ですが”マイスター”と呼ばれる日は必ず来るでしょう。しかし、そんな当たり前のことは既に期待にも及びません。彼自身が”マイスター”と呼ばれる社員を大勢育て上げ、オーエスジーをモノづくりの精鋭部隊に築き上げることを願ってやみません。





日本工具工業会稗史（第三回）

【ドリル戦争と不況カルテル】

昭和34年（1959）、西ドイツ（当時）のローデ社が高周波加熱によるドリル溝転造盤を開発し、一国一社という条件でわが国にも売り込みにきました。この機械は原材料を高周波加熱して二枚の半月形ローラーでスパイラル溝を転造し、後は刃先と外周を研磨すれば完成するという画期的なストレートドリル製造機械でした。従来の製造法と比べ溝の部分削り落とさずに転造するので材料費が少なく済み、製造原価を大幅に下げることが可能とのことで、ローデ社は最初K社に売込みを打診しましたが、同社は一連のドリル溝切り機を新規に揃えたばかりだったので断りました。次に話が持ちかけられたF社は直ちに技術者をドイツに派遣して調査の結果、導入に踏み切りました。この情報が通産省からK社に伝えられ、ローデ社の機械が画期的な性能を持っていることを知り、急遽ローデ社と交渉し一国一社の原則を覆させ導入を決定しました。通産省は中小ドリルメーカーへの影響を懸念して、中小9社にブランク供給することを条件として同社の輸入を許可しました。K社はこれに従い大量のドリルブランクを製造しましたが、折から岩戸景気も終息し、我が国経済は深刻な不況に突入り需要が激減した上、ローデ機で製造したブランクの品質（曲がりの矯正に手間がかかる）がネックとなり価格も折り合わず、後工程での新しい設備も必要となるので、中小9社に対するブランク供給計画は頓挫してしまいました。準備した大量のブランクの処分には迫られたK社は自社で完成品に仕上げ、流通に押し込んだため大量のストレートドリルが市場に溢れ価格は暴落しました。

当時、中小メーカーU社の社長が参議院議員でもあったことから商工委員会で、「大手ドリルメーカーによる価格破壊のため中小ドリルメーカーが倒産の危機に瀕している」と質問し、通産省に善処を求めました。その結果、通産省からK社の社長に事態収拾の指示があり、社長から呼び出しを受けたO常務はゴルフを途中で切り上げて帰社し、直ちに市場に出回っていた大量のドリルの回収に努めました。（しかし中には回収に応じなかった大手工具商社があり、後年騒ぎが収まり価格が安定した時期に格安原価のドリルを売って大儲けしたという話も巷間で噂されました。）

その後、K社のO常務は、社長から業界を騒がせた責任を問われ職を解かれたため、工業会の理事長職も任期途中で退任することになり、以後9ヶ月間は理事長不在の状態が続きました。

この騒動に絡んで評判となった逸話があります。当時通産省の産業機械課のK課長からK社に『…市場に溢れたドリルを買い戻せ……』と指示しましたが、これを聞いたK社のI専務（元通産省産業局長でK課長の上司）は激怒し、『…お前何ということ言うんだ…』とK課長の自宅へ電話をかけて抗議、ちょうど入浴中だったK課長は『…K社はそれ位の事をしないと事態は収拾出来ませんよ…』と反駁し、バスタオルを巻いたままで1時間にも及ぶ長電話になり、とうとう風邪を引いてしまったということでした。

昭和40年（1965）には遂にストレートドリルの市場在庫が3年前の2倍半に達し、価格暴落が止まらなくなりました。そこでドリルメーカー全社は通産省の指導により公正取引委員会に独禁法に基づく不況カルテルを申請し、合法的に生産制限（前年実績の50%減という大減産）を実施することで価格の回復に努め、企業倒産を回避しました。当然のことながらドリル各社は赤字になりましたが、その後、輸出振興、体制整備等の対策が検討されました。

かくしてローデ機による転造ドリルは業界に一大旋風を巻き起こしましたが、ハートライン機に代表される溝の研削仕上げに比べ、コストは安いものの品質も悪いことから当初の鳴り物入りの宣伝とは裏腹に、市場の評判は悪く短期間で幕を閉じました。

不況カルテルを契機として、ドリル業界は部会で各社の生産・出荷状況をお互いに公表し、大手2社と中小9社が市場安定に向けて協調体制を整えたため、一連のドリル戦争に終止符が打たれました。

その反面、協調が進み過ぎた結果、『赤信号、皆で渡れば怖くない』式で原材料値上げに連動して各社が国内価格の引き上げを繰り返したため、国際価格に比して割高となり輸出競争力は弱まってしまいました。

特に大手は価格維持のため毎月それぞれの主要問屋と“ひつじ会”と称する情報交換会（製販会議）を開き需給バランスの調整を図りつつ市場の安定に努めました。

しかし過度な協調体制が談合と見做され、独禁法違反容疑で公正取引委員会の立ち入り検査を受ける羽目になりました。これを機に各部会での会議内容を個人でメモをとることも禁じる申し合わせがされて、以後会議記録は一切残さないことになりました。現在はコンプライアンス遵守から会議の記録を克明に残すことを義務付けられており隔世の感があります。

（Myツール編集委員 細島 圭三）

本部・支部役員

- 理事長 堀 功…(株不二越)
 副理事長 石川 則男…(オーエスジー)
 〃 渡邊 芳男…(株彌満和製作所)
 理事 鶴巻二三男…(三菱マテリアル)
 〃 永尾 卓己…(高周波精密)
 〃 白尾 誠二…(三菱重工業)
 〃 澤近 泰昭…(理研製鋼)
 〃 石橋 秀男…(株イシハシ精工)
 〃 岩田 昌尚…(株イワタツール)
 〃 高橋 勉…(大和精密工具)
 〃 吉田 信夫…(株吉田製作所)
 専務理事 日下部祐次…(日本工具工業会)
 監事 大見 満宏…(大見工業)
 〃 小笠原宏臣…(株小笠原プレジジョンラボラトリー)
 東京支部長 永尾 卓己…(高周波精密)
 中部支部長 堀 功…(株不二越)
 大阪支部長 青木 太一…(三菱マテリアル)

総務企画委員会

- 委員長 木村 康成…(株不二越)
 委員 徳永 良二…(オーエスジー)
 〃 向野下 繁…(三菱マテリアル)
 〃 宇都宮周太郎…(株宇都宮製作所)
 〃 稲葉 健介…(三菱重工業)
 〃 上泉 泰…(株彌満和製作所)
 〃 柏木 健…(高周波精密)
 〃 日下部祐次…(日本工具工業会)

ドリル部会

- 部長 関口 徹…(株不二越)
 委員 涌井 伸吾…(株宇都宮製作所)
 〃 岡部 晴峰…(株岡部工具製作所)
 〃 金森 誠…(株金森ドリル製作所)
 〃 今橋 孝弘…(株齋藤ツキストドリル製作所)
 〃 小川 眞琴…(株小径ドリル)
 〃 山本 稔…(山本精工)
 〃 古澤 正弘…(株彌満和製作所)
 〃 岩野 純一…(理研製鋼)
 〃 岩田 昌尚…(株イワタツール)
 〃 岡村秀一郎…(オーエスジー)
 〃 萩谷 英史…(三菱マテリアル)
 〃 寺原 泰治…(日本エリコンバルザース)
 〃 熊田 実…(株栄工舎)

フライス部会

- 部長 今泉 英明…(オーエスジー)
 委員 岡村秀一郎…(オーエスジー)
 〃 涌井 伸吾…(株宇都宮製作所)
 〃 高萩 敦之…(大洋ツール)
 〃 岩野 純一…(理研製鋼)
 〃 大見 満宏…(大見工業)
 〃 関口 徹…(株不二越)
 〃 萩谷 英史…(三菱マテリアル)
 〃 岡崎 華…(岡崎精工)
 〃 長濱 明治…(株日研工作所)
 〃 吉田 信夫…(株吉田製作所)
 〃 上瀧 正己…(株山陽製作所)

- 委員 寺原 泰治…(日本エリコンバルザース)
 〃 熊田 実…(株栄工舎)

歯切工具部会

- 部長 東野 美彦…(三菱マテリアル)
 委員 仲野 尉二…(株小笠原プレジジョンラボラトリー)
 〃 小寺 巖…(株不二越)
 〃 稲葉 健介…(三菱重工業)
 〃 高橋 勉…(大和精密工具)

ねじ切り工具部会

- 部長 古澤 正弘…(株彌満和製作所)
 委員 岡田 吉弘…(株大岡製作所)
 〃 早坂 儀…(株早坂精密工業)
 〃 海藤 正彦…(株田野井製作所)
 〃 田中 博信…(オーエスジー)
 〃 関口 徹…(株不二越)
 〃 石橋 秀男…(株イシハシ精工)
 〃 赤松 直樹…(酒井精工)
 〃 宮川 宣之…(レッキス工業)
 〃 伊藤 和夫…(株野村工具製作所)

バイト部会

- 部長 植山 浩…(高周波精密)
 委員 寺島 誠人…(株東 鋼)
 〃 宮嶋 和也…(株ユーテムプレジジョン)
 〃 小寺 巖…(株不二越)
 〃 千地 克典…(株三和製作所)

技術委員会

- 委員長 河野 公一…(三菱マテリアル)
 副委員長 関口 徹…(株不二越)
 〃 小出 文也…(オーエスジー)
 委員 西川 正寿…(三菱マテリアル)
 〃 鳥居 武志…(オーエスジー)
 〃 菊池 泰路…(三菱重工業)
 〃 三井 雅夫…(株彌満和製作所)
 〃 坂梨 新…(高周波精密)
 〃 五島 康…(株不二越)
 〃 阿部 和正…(三菱マテリアル)

ドリル専門委員会

- 委員長 関口 徹…(株不二越)
 委員 田中 敦則…(株宇都宮製作所)
 〃 金森 誠…(株金森ドリル製作所)
 〃 山本 稔…(山本精工)
 〃 丸山 幹夫…(理研製鋼)
 〃 阿部 和正…(三菱マテリアル)
 〃 岡部 晴峰…(株岡部工具製作所)
 〃 岩田 昌尚…(株イワタツール)

フライス専門委員会

- 委員長 鳥居 武志…(オーエスジー)
 委員 五島 康…(株不二越)
 〃 田中 洋光…(三菱マテリアル)
 〃 高萩 敦之…(大洋ツール)

歯切工具専門委員会

- 委員長 西川 正寿…(三菱マテリアル)
 委員 藤寄 和寛…(三菱マテリアル)
 〃 澁谷 吉晴…(株小笠原プレジジョンラボラトリー)
 〃 楠井 鉄治…(大和精密工具)
 〃 高見 俊輔…(株不二越)
 〃 菊池 泰路…(三菱重工業)

ねじ切り工具専門委員会

- 委員長 三井 雅夫…(株彌満和製作所)
 委員 谷米 学…(株彌満和製作所)
 〃 木暮 一彦…(株田野井製作所)
 〃 小出 文也…(オーエスジー)
 〃 松本 克洋…(株不二越)
 〃 八馬 厚雄…(酒井精工)
 〃 中川 俊昭…(株野村工具製作所)
 〃 横田 茂夫…(レッキス工業)
 〃 松本 正徳…(株大岡製作所)

バイト専門委員会

- 委員長 坂梨 新…(高周波精密)
 委員 寺島 誠人…(株東 鋼)
 〃 宮嶋 和也…(株ユーテムプレジジョン)
 〃 蛸谷 隆一…(株不二越)

環境委員会

- 委員長 松岡 信一…(株不二越)
 副委員長 桑原 浩之…(株宇都宮製作所)
 〃 清水 文人…(オーエスジー)
 委員 坂梨 新…(高周波精密)
 〃 楠井 鉄治…(大和精密工具)
 〃 木暮 一彦…(株田野井製作所)
 〃 馬場 健一…(理研製鋼)
 〃 福永 浩…(三菱マテリアル)
 〃 土手 常敦…(三菱重工業)

My ツール編集委員会

- 委員長 日下部祐次…(日本工具工業会)
 主幹 田島有紀子…(株不二越)
 委員 榎本 直子…(オーエスジー)
 〃 市東有希子…(三菱マテリアル)
 〃 細島 圭三…(株彌満和製作所)
 〃 坂梨 新…(高周波精密)
 事務局 西山 里美…(日本工具工業会)

新社長紹介

大洋ツール株式会社
代表取締役社長

高萩 敦之 (たかはぎ あつゆき)

1994年3月 合資会社大洋ツール製作所(現:大洋ツール株式会社)入社
2014年4月 代表取締役社長就任



平素より日本工具工業会のみなさまには大変お世話になっております。1949年創業して以来お陰様で65年の歳月を迎える事が出来たと同時に私自身入社20年を経て、この度4代目として代表取締役社長に就任いたしました。

就任しあらためて、会員みなさまをはじめお客様や社員さんという、恵まれた巡り合せの中で「人」に支えられ今日があるという事への感謝の気持ちで溢れております。まだまだ若輩者ではございますがこの初心を忘れる事なく、更なる次世代に向けた人財の育成はじめ社業に努める所存です。

そして拠点である「モノづくりの町」この大田区で、社員さんと共に成長しその「技脳」で世界中のモノづくりに貢献して参ります。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

特殊鋼工具 平成24～25年度生産額実績及び26年度見通し

(単位:百万円、%)

品 目	平成24年度 実績	平成25年度実績				平成26年度見通し					
		上期実績	下期実績	年度実績	前年度比	上期見通し	前年同期比	下期見通し	前年同期比	年度見通し	前年度比
ドリル	15,920	8,683	8,988	17,671	111.0	8,961	103.2	9,186	102.2	18,147	102.7
ミーリングカッタ	9,163	4,250	4,677	8,927	97.4	4,479	105.4	4,664	99.7	9,143	102.4
ギヤーカッタ	10,083	4,714	4,788	9,502	94.2	4,775	101.3	4,908	102.5	9,683	101.9
ブローチ	12,467	6,667	6,858	13,525	108.5	6,907	103.6	7,194	104.9	14,101	104.3
タップ・ダイス	30,556	13,527	13,989	27,516	90.1	14,893	110.1	15,052	107.6	29,945	108.8
バイト	1,923	902	962	1,864	96.9	941	104.3	957	99.5	1,898	101.8
リーマ	1,705	800	853	1,653	97.0	837	104.6	902	105.7	1,739	105.2
合 計	81,817	39,543	41,115	80,658	98.6	41,793	105.7	42,863	104.3	84,656	105.0

(出典:経済産業省 機械統計)

ソリッド切削工具(ハイス+超硬) 平成24～25年度生産額実績及び26年度見通し

(単位:百万円、%)

品 目	平成24年度 実績	平成25年度実績				平成26年度見通し					
		上期実績	下期実績	年度実績	前年度比	上期見通し	前年同期比	下期見通し	前年同期比	年度見通し	前年度比
ドリル	22,252	11,619	12,568	24,187	108.7	12,700	109.3	13,090	104.2	25,790	106.6
ミーリングカッタ	21,356	10,952	11,373	22,325	104.5	11,430	104.4	11,580	101.8	23,010	103.1
ギヤーカッタ	9,588	4,442	4,587	9,029	94.2	4,500	101.3	4,700	102.5	9,200	101.9
ブローチ	11,158	5,983	6,101	12,084	108.3	6,200	103.6	6,400	104.9	12,600	104.3
タップ・ダイス	33,386	14,784	15,181	29,965	89.8	16,270	110.1	16,360	107.8	32,630	108.9
バイト	2,344	1,151	1,266	2,417	103.1	1,200	104.3	1,260	99.5	2,460	101.8
リーマ	243	368	364	732	301.2	385	104.6	385	105.8	770	105.2
その他工具	337	171	173	344	102.1	180	105.3	180	104.0	360	104.7
合 計	100,664	49,470	51,613	101,083	100.4	52,865	106.9	53,955	104.5	106,820	105.7

(出典:日本工具工業会 会員統計)

編集後記

2007年1月よりMyツール編集委員をしてきましたが、今号をもって退くことになりました。約7年半の間には日本工具工業会創立60周年記念行事への参加や記念誌の発行、Myツール100号記念号発行に携わることができ、とてもいい経験になりました。

今後は違う形で工業会へ関わっていかれたらと思っています。ありがとうございました。

(オーエスジー 榎本 直子)